

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001047		
法人名	(有)モリカワコーポレーション		
事業所名	グループホーム荒子の郷 1階		
所在地	愛知県名古屋市中川区上流町2丁目20番地		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	平成31年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2371001047-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	平成30年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

管理者のこだわりもあり、入浴を週3回以上入って頂くようにしております。また社長、会長が医師と言う事もあり、体調不良の利用者様などがみえましたらすぐ連絡し、指示を頂く体制ができております。また月20回程は医師の会長がホームに来られ、連携が取りやすい環境となっております。会長の意向もあり、看取りケアにも力を入れております。そのため最後までホームで過ごされる方が多いです。ケアにおいては、自分の親や自分自身も入所したいと思える施設を目指しています。ユニット会議なども含め、日々何が最善かを考え、ケアをしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「病気じゃなく人をみたい」との思いをもつ医師を代表者として、認知症介護指導者2名(管理者、主任)が核となり、「家族や知人が此処に入ってもいいと思えるケアサービスしよう」と励んでいる事業所です。『目指す介護の実現のために平均介護度3.3のなか週3日の入浴と手作りの食事にこだわり、日勤の配置をプラス1名とする』といった地道な頑張りや町内会の皆さんも受けとめていて、『隣のスクラップ屋さん⇒ベッドや家電の無償引き取り』『駐車場の前の家⇒駐車場花壇の手入れ』『車屋さん⇒エスケープ情報』『民生委員、家族⇒趣味で釣った魚、採れたて野菜や果物の寄贈』と、地域応援団の日常的なエールがあります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「笑顔と尊敬」をホーム内の玄関等に掲示し年1回ホーム内で研修を行っている。毎朝の朝礼で職員の心得を唱和している。	「家族が此処に入ってもいいと思えるケアサービスをしよう」と具体的な合言葉を以て推進する事業所理念は、「みんなの笑顔のために」を7ヶ条に落とし込み、毎朝唱和しています。また「こうなりたい」想いを個々に綴り、写真付で玄関に貼り出して来訪者に告知してもいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会の行事に積極的に参加している。またホーム内で行う夏まつりやクリスマス会に参加していただき交流を図っている。	町内運動会、篠原神社での餅つき等地域行事への参加は盛んです。特に荒子観音での盆踊りでは職員が休出、残業と総出で関わり、最も華やかな19時～20時での観覧が叶い、また子ども会とのクリスマス会、夏祭りは愛らしい声が響きあい、生徒の職場体験も恒例となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて町内の方にも認知症について発表し理解を深めている。近隣の中学校の職場見学や体験を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し家族代表・医師・薬剤師・町内会役員・民生委員・地域包括から様々な意見をいただきサービスの向上に活かしている。	地域包括支援センターや町内会、家族、職員は無論のこと、子ども会からは会長、副会長、会計の三役が顔を揃え、隔月開催が実現しています。食事の試食に始まり、事業所の方向性に至るまで協議された充実感満載の議事録を確認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターの方に運営推進会議へ参加していただき、意見交換等をしている。区内の認知症連絡会に参加し市職員との協力関係を築いている。	大府、東京、仙台の認知症介護・研究研修センターとは実習の受入れやデータ収集の協力をおこなうほか、東部いきいき支援センター(地域包括)の依頼では家族介護者対象の講座や認知症サポーター養成講座へ講師派遣をおこない、行政との協力関係を日々築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、玄関のドアは施錠しているが、代表者および管理者スタッフ一同は「身体拘束をしない介護」について、ユニット会議で3ヶ月に1度確認し合い、全入居者が安全で穏やかな生活をして頂ける様に考え、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	委員会設置はないものの、改正後年4回の協議実施を位置付けています。平均介護度3.3と重度化が進むなか職員はクルクルと立ち働いていますが、来年12月までの休暇申請ができたり、月4日の希望休がとれる等ストレスフリーへの配慮が進んでいて、総じて職員は朗らかです。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回ホーム内で研修を行い理解を深めると同時に防止に努めている。言葉遣いにも注意を払うようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を入所してから利用している方もいる。スタッフも後見人制度については学ぶ機会を持つことができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に文章で説明し分からないことは言葉で補足をしている。改定時には必要に応じ書面にて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際に家族から意見や要望を聞くようにしている。必要に応じてスタッフ間で情報共有している。	管理者と主任が必ず日勤に入り家族と会話ができるようにしています。他にも事業所のスマホからムービーで「完食しました」「タオルたたみましたよ」と写メ付を送ることで「いま此処の様子」がタイムリーに共有できていて、職員が兄弟のLINEに加わる例もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議を行い意見交換をしている。管理者からは年に1回、総務から年2回職員に面談を実施している。出された意見は月一回の管理会議で取り上げている	19名中13名が正職員で、短い人でも5年勤務と定着率が高く、また職員家族の入居例が3名もあるほど信頼に結ばれています。「この人のためになるなら」の想いが強く、着脱が難しい利用者の衣類改良までおこなっていて、多様な意見がでている職員集団です。	利用者個々のカンファレンスや改善案が豊富だからこそ、今後は運営に及んでまでの意見が出てくる工夫や仕組みについて検討されることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を行い意見を組み上げている。毎月、会長社長総務を含め管理者会議を開催し意見交換を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で、毎月ユニット会議の時に時間を取りスタッフが研修内容を考え研修を行っている。外部の研修にも出来るだけ参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いきいき支援センターや地域主催の行事、区内の認知症連絡会、認知症サロン等に参加して、交流ができる機会を設けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所されてしばらくは特に不安にならないよう努めている。また必要な事はスタッフ間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に希望要望を確認している。連絡の際にはメールなどを活用し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族の要望を受け止め、今必要なケアは何かを話し合いケアプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活を尊重し無理強いせず、その時その時の心情を尊重し関わっている。嫌なことはしないを実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状態や日々の様子などを面会時やメール等で家族に連絡し、情報を共有できる関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所からの入所者は町内会の行事に参加したりして馴染みの人や場所との関係が途切れないようにしている。	家族とはLINEやブログで情報共有しており、週3~4回食事介助に訪れる家族が食器洗いを手伝う姿も視認しました。また日々の飲み物も、カルピス、珈琲、ココア、紅茶、オレンジ・アップル・ピーチ等のジュース、マミーと多種揃え、その人の馴染みの物を提供しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	男性利用者が多く、また会話が難しい方が多く、会話がほとんどない。スタッフが声掛けをし、関わりを持つように心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ家族から相談していただける関係作りに努めている。また、亡くなられた時は葬儀等に出させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意見の言える入居者に対しては、本人本位の介護をしている。自分の意見が言えない入居者に対しては家族様にご意向をお聞きし、職員間で話し合い、本人の気持ちを想像して介護の方針を検討している。	『早期に関わることが認知症ケアにとって大事』との考えが一貫しています。入居では職員の中からキーマンを選び、マンツーマンで関わりをもつことを定石としていて、オムツだった人が現在は自身でトイレに行くようになって表情に笑顔も生まれたケースもあり、考えが実っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前面接にて本人・家族にこれまでの生活環境や暮らし方を聞き取りして把握に努めている。入所後の介護に活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録やメール等で情報を共有し心身の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には家族の意向・本人の意向を確認が困難な場合は、ユニット会議で問題点や意向を話し合いケアプランに反映している。	各ユニットの計画作成担当者が介護計画書を作成し、計画作成担当と兼務の介護支援専門員が最終チェックをおこなっています。職員間のLINEアップも頻繁に係る情報共有が確かです。サービス担当者会議に医師の参加はありませんが、密な連携により方向性の一致をみえています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を生活記録に記入し何か変わった事があれば、色を変え記入し直ぐにわかりやすくしている。またスタッフ間はメール等で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じてお墓参りや通院の支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内、学区の一員として町内会、子供会の行事に積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	会長、社長が医者と言う事もあり往診や受診で日々の健康管理をしている。特変があればすぐに連絡し、指示をいただいている。	介護と医療の垣根が無いことに特長を有し、代表者である医師が全体往診並びに1日1名の訪問診療をおこない、ほぼ毎日通ってきてくださいます。看護師も週2回訪れ、医療連携加算もとり、診療情報提供書と居宅療養管理指導情報提供書も個人ファイルに挟んで共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が週2日で勤務しており日々の様子は常に報告相談できる環境になっている。休日の場合は会長の医師に往診の際や、メールで連絡相談、指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は日々の生活や薬剤情報等を情報提供をしている。また退院した場合は病院からの情報提供をお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を踏まえ医師と職員が連携をはかり安心して納得した最期を迎えられるよう随時意見を確認している。	看取りを実績を年々重ね、此処1年でも2名のお見送りをしています。ターミナルに向かう予兆を発見したら速やかに医師を交えて話し合うこととし、看取りでは普段の何倍も協議して「お互い何ができるのか」を確認することで「十分やったので後悔しない」と思えるよう取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回ホーム内で研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼と夜の避難訓練を行っている。避難場所や備蓄の確認も行っている。	隣のスクラップ屋さんに「一緒にやりませんか」と声をかけて取り組むこともある防災訓練は年2回実施しており、内1回はリアル感のある夕方から夜間想定をおこなっています。循環備蓄を取り入れ、毎月1回消費して食糧を新しいものに入れ替えています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心を傷つけないよう配慮し、言葉掛けや対応に気を付けている。若年性認知症の方も入所しており同性介護を心掛けている。	リビングに在るトイレにはカーテンが2重に取り付けられ、すぐ隣の浴室にもカーテンが付いています。同性介助と「～ちゃん」づけは原則禁止ですが、「女優のように七変化できるように」ということも重要視しており、本人本位に接することを大切にしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できるよう日々の関わりの中で考え、本人の思いをくみ取るよう関わりを持っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間にこだわらず利用者本人のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介助の必要な入居者は職員が保清などに気を使っている。男性入居者には毎日髭剃りなどの声掛け、介助をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備片付けは職員が行っている。食事もなるべく介助無しで食べれるよう箸やスプーン・食器を手に渡したり出来るだけ自分で食べて頂いている。	トースト、ご飯、お粥、おにぎり主食が選べ、上に乗せる付け合せも桜でんぶ、つくだ煮、梅干しと人それぞれです。『お節はかまぼこ以外手作り』ということからも判るように食事に力を入れ、嚥下反射がほとんどない利用者には柄の長いスプーンや、プッシュボトルを導入しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食記録している。水分量が少ない入居者は水分摂取量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけをしている。自分で出来ない入居者は介助している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導や声掛けを行い、なるべくトイレで排泄できるようにしている。座位が不安定な入居者はベッド上でパット交換を行っている。	排泄チェック表をつけリズムを掴むことでオムツから布パンとなったり、今年4月リハパンでの入所が現在は布パンといった向上例が絶えません。立位がとれず下着を下げるのが難儀な利用者のために、腰にマジックシートを取付けることでトイレでの排泄を可能とした例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分も摂るよう促したり、ご飯やお粥を炊くときに食物繊維の多い寒天を入れている。それでも出ない時は主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員不足で決められた時間・日付にしか入浴できない。週3回は入浴できるようにしている。	『座ったまま入浴できる』取り外し可能な簡易浴槽を購入したことで、浴槽に脚を入れられなくなった人も湯に浸かる喜びを味わうことができます。湯は毎日張りますが、本人は週3日の入浴と4日の足浴で清潔を保っていて、母の日には薔薇を浮かべる花風呂もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて日中でも臥床している。なるべく椅子や車椅子に座りっぱなしにならないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を記録の前にとじ込み、いつでも確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム全体での季節ごとの行事は行えているが一人一人の生活歴や力を活かした役割は見出すことができていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近くなら職員と一緒に出掛け遠い場合は家族にお願いし外出している。時々喫茶店に行く、散歩に行くなど外出の機会を増やす努力をしている。	全体外出として春秋、チェーンレストランでの外食会がおこなわれ、年に数回「モーニングに行こう」と声掛けして個別外出を重ねています。自立歩行できる人は好天ならば職員と戸外散策や買い物ドライブに出ている、重度となっても畑を覗くといった外気浴が慣行されています。	お誕生月には居室担当者と二人でデート外出が実現したら、なお良いと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで立て替えている。買い物、喫茶店などの飲食などでお金を使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望した時にいつでもかけられるようにしている。認知症の為に忘れてしまうが、声を掛けるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を第一に考え危険が予測されるものは配置しないようにしている。共用の空間が不快にならないよう清潔を保つようにしている。	天窓からの日差しが強いことから天幕を張ったり、エアコンの風が苦手な利用者には居室前に小さな扇風機を取り付けたりと、五感への配慮の高さが見てとれる一方で、高い位置に物が置かれていたり、普段使用しない箇所の汚れがあります。	次の2点の検討、推進を期待します。①スペースに無理があるのは理解しますが、ソファなどの居場所づくりへの取組み ②(重度化対応で職員工数にはムリがあると思われる為)清掃要員の増員
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他フロアに遊びに行ったり、新聞を読んだりテレビを見たり、また一人になりたい時は居室に戻られたりと利用者様一人一人の意向に沿って生活していただいている。男性女性の入居者がおられるので見たいテレビも違い壁に一台設置した。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた使い慣れた馴染みの物や本人様の好きなものを居室に置いたり工夫して居心地良いようにしている。	扉の前には居室担当の職員が手作りした表札が其々に下がっています。これまでの暮らしでの馴染みから簀子の上に布団を敷く人や、家族写真を大きく伸ばして壁いっぱい貼り出したり、重度化対応のスライディングシートが配された部屋もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を干したり、たたんで頂いたり、おしぼりを巻いて頂いたり、出来ることは出来るだけして頂いている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001047		
法人名	(有)モリカワコーポレーション		
事業所名	グループホーム 荒子の郷 2F		
所在地	愛知県名古屋市中川区上流町2丁目20番地		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	平成31年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2371001047-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	平成30年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

会長がDrという事もあり、いつでも連絡の取れる体制になっています。また、往診や受診で日々の健康状態のチェックや状態の変化を報告する事ができ、健康面では安心して生活を送る事ができます。できるだけ最後まで住み慣れた所で暮らせるようにとの思いから、ご本人や家族の思いに寄り添い、慣れ親しんだ人たちに囲まれながら最期を迎えられるよう、ターミナルケアに力を注いでいます。ご本人の持てる力を発揮できるように、毎日を過ごせるようにと願って日々入居者様と暮らしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「病気じゃなく人をみたい」との思いをもつ医師を代表者として、認知症介護指導者2名(管理者、主任)が核となり、「家族や知人が此処に入ってもいいと思えるケアサービスしよう」と励んでいる事業所です。『目指す介護の実現のために平均介護度3.3のなか週3日の入浴と手作りの食事にこだわり、日勤の配置をプラス1名とする』といった地道な頑張りや町内会の皆さんも受けとめていて、『隣のスクラップ屋さん⇒ベッドや家電の無償引き取り』『駐車場の前の家⇒駐車場花壇の手入れ』『車屋さん⇒エスケープ情報』『民生委員、家族⇒趣味で釣った魚、採れたて野菜や果物の寄贈』と、地域応援団の日常的なエールがあります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔と尊敬」が理念。理念について年に1回研修をしている。朝の申し送り、今年度の目標やケアの心得を唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	獅子舞や盆踊りに参加している。夏祭りやクリスマス会などのホームの行事に町内会の子供会が参加している。近くの中学校からは、職場体験や職場見学を受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の啓発も行っている。また、相談をいつでも受け入れる事を伝えられる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで開催している。運営推進会議は家族代表・町内会役員・子供会・民生委員・地域包括・薬剤師・医師(会長)が参加している。会議で出た意見を取り入れ、反映できるように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の職員が運営推進会議に参加し、意見交換等をしている。区内の認知症連絡会に参加し、市職員と協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、玄関のドアは施錠している。管理者及び職員一同は『身体拘束をしない介護』について確認し合い、全入居者が安全で穏やかな生活ができるように考えている身体拘束について会議の課題に上げて、話し合いをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的だけではなく、精神的虐待についてもユニット会議や研修時に確認をしている。また、普段より利用者様の着替えや入浴時に身体に変わったところが無いかを確認し、全職員に共有する事で虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を入所してから利用している方もいる。制度について、説明し理解して頂くように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限り細やかな説明を行い、疑問点があった際には、理解・納得して頂けるように努力している。改定時においては必要に応じ書面にて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、玄関に御意見箱を設置して、いつでも受付できるようにしている。家族からの要望や提案がある場合は、極力取り入れている。入居者からの意見や要望は、できる限り汲み取り、実践している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者や総務と個人面談をする機会を年に2度設け、個人の思いや希望に注目し、希望の研修などに参加できるなど、スキルアップを図ることに協力している。また、年に1回アンケートを行い、意見を汲み取っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の労働環境の改善はできる事から取り組んでいる。賃金面の諸手当の充実や昇給などを行っている。また、毎月管理者会議を行い、運営、職場環境について、各事業所の家knを上層部に話す機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	有料の外部研修であっても、所定の金額内であれば各自、希望の研修に行けるようにしている。また、年2回、自己評価とリーダー評価を行い、職員個々の力量や弱点を見出し成長を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括センターや地域主催の行事・区内の認知症連絡会に参加して、交流ができる機会を設けている。また、近くの施設での行事に参加し交流を図っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前面接を行い、本人の意向や要望、不安などに心を傾けて、いかにしたらホームでの生活を楽しめ、不安なく過ごせるか等を事前に打ち合わせている。入所後は、言葉掛けを多くし、早く生活に慣れて頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や困っていることを把握するために聞き取りを十分に行い、ご家族も話しやすい環境づくりを進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネや入院先の看護師や相談員から情報を受け、家族との面談を行って、必要としている支援を見極め、不安を取り除くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の医学的な理解を深める一方で、認知症であるという概念に囚われないよう努めている。本人の尊厳を大切にし、本人主体の介護を行い、共に生活を楽しむようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理やは毎月、写真と手紙を送り、近況をお伝えしたり、電話連絡を入れたりしている。職員は来所時にご本人の近況をお伝えし、家族と本人の関係が継続できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者や家族の話、生活歴等から馴染みの場所等を聞き把握すると共に、いつでも知人等の電話や手紙で連絡の仲立ちを行い、必要に応じてこれまで関わってきて人との交流が継続できるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の言動を把握し、利用者同士が相互に支えあい励まし合う事ができるようにしている。必要に応じて職員が仲介に入り、良好な関係が維持できるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様や関係機関との連携を取り、具体的な方向性が決まるまで責任をもって対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時の情報収集、日々のケア、ふとした時に口から出る言葉や表情を考慮して、意向や希望を把握し、ケアプランやケアに取り入れるように努めている。また意向や希望等が判断できない方に関しては、利用者の情報を基にその人らしさを大切にし、その人本位を検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に事前面接を行い、本人や家族から情報を得ている。入居後は本人から生活歴等を聞き出し、支援に結び付けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中でできる事、できない事、個々の能力の把握をしている。特変があった場合、記録を青字で書いて、各職員へ共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議で話し合いを行っている。さらに面会時にはご家族のお話も聞き、介護計画に反映させるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個々の介護記録に状態や記録をしており、特変時には、青字で記入する事で、職員間での情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じてお墓参りや買い物、通院の支援を行っている。また、職員間でアイデアを出し合い、相談しながら取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	子供会や民生委員との関係強化に努め良好な関係が築けている。いきいき支援センターとの関係づくりにも努め、職員ができるだけ参加するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	会長・社長が医者という事もあり、往診や受診等で健康管理をしている。病状等医師からの説明も細目にして、医院での治療が困難な場合は検査機関を紹介したりしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が週2日勤務しており、日々の情報は常に報告相談できる環境にある。休日等は会長にメール電話等で相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合はホームでの生活の様子を情報提供し、入院中の様子を確認する為に面会に行き、退院が決まったら病院からの情報提供をお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や事あるごとに看取りについて確認をしている。ほとんどの方が、終の棲家として入所され、家族には今までに看取りをしてきた方の話を機会がある時にしている。看取りはチームで行うものと考え、職員には事あるごとに終の棲家について話をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年緊急時や事故発生時のホーム内研修を行い、訓練をしている。夜勤を担当する職員は特に連絡体制の手順の徹底を教育訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は毎年昼夜1回ずつ行っている。避難場所の確認は備蓄の確認等も行い、スタッフが把握している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念である笑顔と尊敬を忘れず、その人本位の考え、その人らしさを尊重するように努めている。プライバシー保護に関しては、契約時に個人情報の取り扱いについて説明し、職員間で共有している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる事やしてみたいことを利用者と職員と一緒に探し、それが実現できるように努めている。ユニット会議で議題として年に何度も上げ、職員間で共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースを尊重するようにしている。その日の活動は職員の思いを押し付けないようにし、本人の意向を尊重するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定を尊重し、季節や天候に合わせて、洋服の提案を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力に合わせて、準備や片づけの協力をお願いしている。時には、ホットプレートを使ってお好み焼きを一緒に作ったり、おやつ作りをしている。季節の旬の食材が食べられるようにと、メニューを考え提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が少ない方には、チェック表を作り、把握をしている。体重の増減を毎月確認している。個々の嚥下状態を把握し、一人ひとりに合わせた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけをしている。誤嚥性肺炎の可能性のある方は、マウスウォッシュを用いてケアをしている。歯科衛生士による口腔ケアを動画に撮り、手技を職員に取得してもらうように促している。毎週、歯科衛生士の指導を受け清潔保持に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	元ある状態に戻すという考えのもと、排泄パターンを把握し、可能な方は布パンツで生活できるように支援している。失禁がないように、早めに声をかけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維をなるべく多く摂取できるように、ココアを提供したり、ご飯やお粥を炊く時に寒天を入れている。食事コントロールで難しい場合は主治医に相談し下剤の調整等行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状、入浴が自由には入れることは出来ない。必ず週に3回		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースを尊重し、日中は作業的な活動だけでなくテレビ、ビデオなどを見てゆっくり過ごせるような環境作りを行っている。夜間良眠できるように、日中好きな事やしたいことを十分にできるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく薬が処方される場合は職員に申し送りを行い、薬剤情報の確認を促している。先月分も含めて、薬剤情報はいつでも見れるように生活記録と一緒にしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なこと苦手なことを把握し、頼りにされることでホームでの存在意義を見出し、各入所者が持てる力を発揮できるように支援している。また皆で歌を歌ったり、体操で体力維持、カルタなどで楽しい時間を過ごしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	4ヶ月ごとにモーニングを食べに行っているが、日常的な外出は近隣の散歩が主になっている。季節ごとに、花見や盆踊りに出かけている。家族の支援の下、お墓参り、外食など行われている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に家族が金銭の管理をしている。ただし、本人の安心につながるのであれば、家族と相談のうえ、少額を持てるようにしていたことがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りができるように、切手やはがきを常時保管している。電話は希望があればいつでもできるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	極力、派手な飾りつけはせず、入居者の作品を中心に飾っている。天井が高く、天窓がある為、開放感があり明るくなるように設計されている。木の梁が見えることで温かみのあるフロアになっている。湿度計を設置し、常に45%を維持するように心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルだけではなく、ソファを置き自由に楽しめる工夫をしています。テレビや音楽も本人が自由に楽しめるように言葉掛けを行っています。気の合う利用者が隣同士になれるように配慮するなど適宜最適なレイアウトを心がけている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自分が使っていた家具を持ち込んでもらったり、家族写真を飾ったりして居心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所の場所がわかるように名札をつけたり、自室が分かるように名前を掲げたりして分かるようにしている。建物内はすべてバリアフリー構造になっており、手摺も歩行可能な場所にすべて取り付けてある。		